

# 就実小学校の学校図書館リニューアルに 関する協働の報告

－図書館レイアウトを中心に－

**Report of the collaboration on the renewal in the Shujitsu Elementary  
School Library : focusing on layout in the library**

松崎博子 ・ 黒瀬知子  
十河 妹 ・ 水溜友紀子  
普津澤 智 早

# 就実小学校の学校図書館リニューアルに関する 協働の報告

－図書館レイアウトを中心に－

Report of the collaboration on the renewal in the Shujitsu Elementary School  
Library : focusing on layout in the library

松 崎 博 子 (総合歴史学科)

MATSUZAKI Hiroko

黒 瀬 知 子 (就実大学・就実短期大学図書館図書館事務課課長)

KUROSE Tomoko

十 河 妹 (就実小学校教頭)

SOGO Mai

水 溜 友紀子 (就実小学校事務室係長)

MIZUTAMARI Yukiko

普津澤 智 早 (就実小学校図書館司書)

FUTSUZAWA Chihaya

キーワード：学校図書館 図書館リニューアル 図書館レイアウト 協働

## 【目次】

はじめに

- |                        |                            |
|------------------------|----------------------------|
| 1 就実小学校および図書館の概要       | 4.1 経緯                     |
| 2 大学教員の立場から (松崎)       | 4.2 予算確保                   |
| 2.1 2019年時点での問題点       | 4.3 レイアウト                  |
| 2.2 図書館レイアウト変更の検討過程    | 4.4 書架移動                   |
| 2.3 授業教材としての活用         | 4.5 リニューアル                 |
| 3 学校図書館司書の立場から (普津澤)   | 4.6 最後に                    |
| 3.1 リニューアルをしてどう改善されたか  | 5 小学校教頭の立場から (十河)          |
| 3.2 リニューアルに際してのこだわり    | 6 大学図書館司書の立場から (黒瀬)        |
| 3.3 今後どうしていくか          | 大学図書館と小学校図書館との協働<br>事業について |
| 4 小学校事務職員の立場から (水溜)    | おわりに                       |
| 就実小学校図書館リニューアルの<br>道のり |                            |

はじめに (松崎)

2021年8月16日就実小学校の図書館レイアウトを変更するために図書の搬出がおこなわれた。搬出作業に当たったのはアフタースクール(学童保育)に通う児童約30名と小学校教諭約10名で、児童らは、図書館書架の前に整列して教諭から図書を受け取り、それぞれ両手に抱えて、廊下を歩き、一時仮置き場となる図書館隣の教室まで運んでいた。児童が楽しそうに、一所懸命、図書を運ぶ様子は見ていてとても微笑ましかった。図書の搬出から二日後、業者によって書架の移動がおこなわれ、【図1】の書架配置となった。

遡ること二年前、2019年8月26日に図書館レイアウト変更に関する検討が開始された。2019年春に十河教頭が着任したのをきっかけとして大学教職員による小学校図書館の見学が認められ、小学校図書館の改善を目指す協働が就実小学校および就実大学教職員の間で実現した。新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受けて一時中断を余儀なくされたが、ようやく図書館レイアウトの変更に漕ぎつけたこれまでの経過を振り返り、記録に留めておきたい。

まず検討会メンバーについて紹介する。松崎は就実大学図書館司書課程および学校図書館司書教諭課程を担当している。黒瀬は就実大学・就実短期大学図書館図書館事務課課長として図書館の管理運営をおこなっている。大学図書館の業務に長年携わり豊富な経験

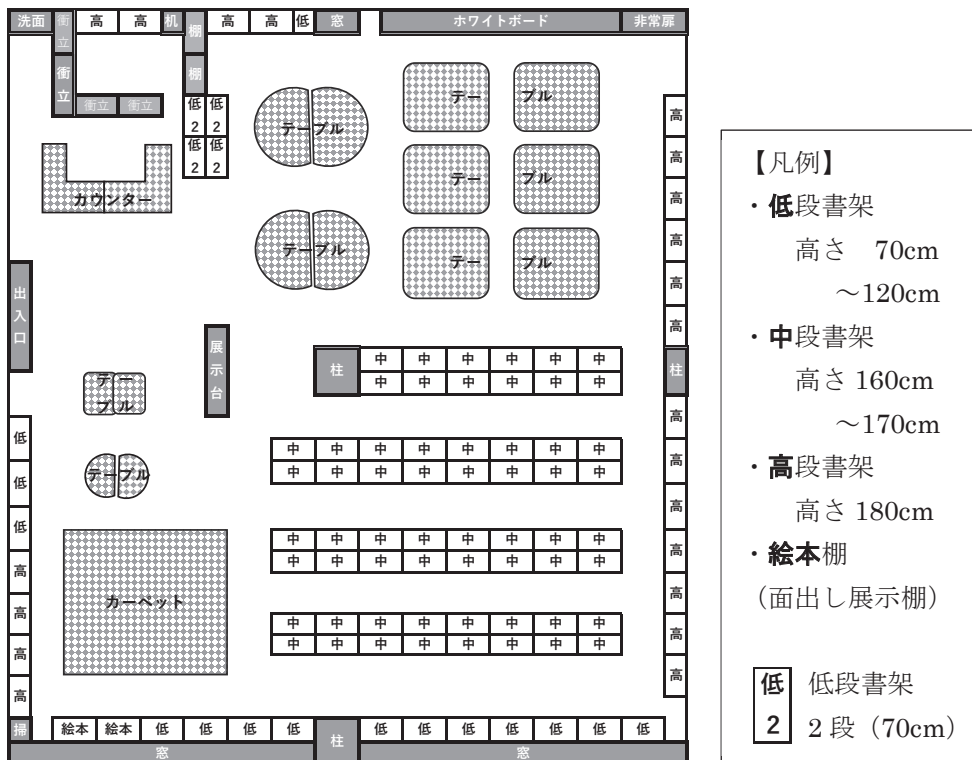


図1 図書館の書架配置(2021年8月)

を有する。十河は就実小学校教頭として小学校の経営をおこなっている。2019年に着任した。現在教頭の職にあるため司書教諭の発令を受けていないが、他校において司書教諭を務めた経験を有する。就実小学校事務室係長の水溜は就実大学・就実短期大学図書館で司書として長年業務に従事した。2018年に就実高等学校・中学校事務室から就実小学校へ異動している。就実小学校図書館司書の普津澤は2019年夏に着任した。

本稿では、上記の検討会メンバーがそれぞれの立場で思考し、実践したことをそれぞれによる表現方法で率直に記録することにした。原稿の加工編集は最低限に留め、表記（語彙）の統一、記述の整合性保持は敢えておこなわなかった。合意形成を図っていないため主語に「われわれ」は使用しないこと、記述内容の一部に重複や矛盾が見られることを、読者のみなさまには予めご承知おきいただきたい。

## 1 就実小学校および図書館の概要（松崎）

2015年4月に開校した就実小学校は、「グローバル社会の担い手として未来をつくる“就実の子”を育む」ことを教育理念として掲げ、「就実型イメージ教育」「先進的なICT教育」「質の高い教育カリキュラム」を教育の特色として挙げている。2020年に完成年度を迎え、2021年3月に初の卒業生を輩出した。

就実小学校の入学定員、収容定員、在学者数および職員構成は【表1】【表2】のとおりである。

表1 就実小学校の入学定員、収容定員、在学者数（R3.5.1.）

入学定員	収容定員	在 学 者 数 (人)						
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
60	360	39	50	42	48	34	48	261

表2 就実小学校の職員構成（R3.5.1.）

校長	教頭	教諭	常勤講師	非常勤講師	教員計	職員		計
						専任	兼務	
1	1	11	13	1	27	1	13	41

※職員数兼務にはアフタースクール担当者を含む

就実小学校と就実大学・就実短期大学は西川原校地に所在し、建物は隣接している。【図2】児童の安全確保のためセキュリティ対策は万全で、部外者および大学教職員、学生は許可なく小学校構内へ立ち入ることはできない。大学短大からの動線は完全に切り離されている。図書館は校舎2階東端に所在する。【図3】

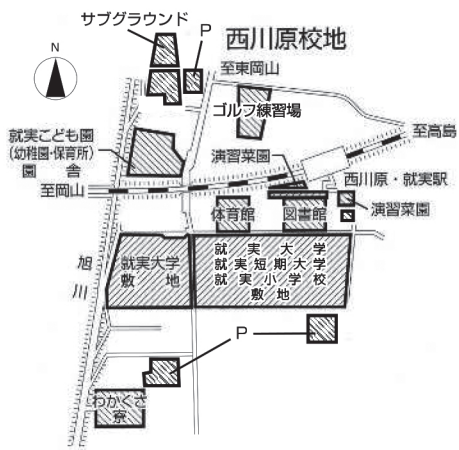


図2 西川原校地

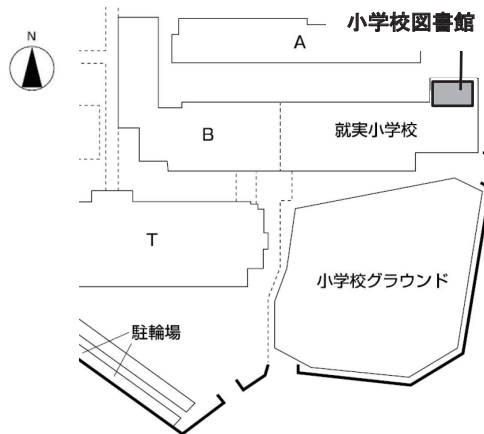


図3 建物配置図

図書館の面積は243.05㎡。

図書館出入口は南側の廊下に面している。廊下を挟んで向かいに職員室があり、廊下側の壁上半分が窓のため、廊下から図書館内が見えるようになっている。図書館東側の壁上半分にも窓が設置され、四ヶ所が開閉可能となっている。北側の壁に窓はない。西側の壁中央には小さな出窓がある。

【図4】

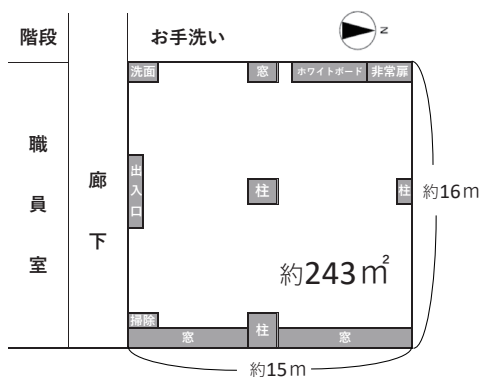


図4 図書館の建物概要

就実小学校図書館の所蔵資料の内訳は【表3】のとおりである。なお、図書とまんがには洋書（英語）が豊富に含まれているが、これらは就実小学校の推進するイマージョン教育の展開を目的として重点的に収集され、利用に供されているものである。

表3 就実小学校図書館の所蔵資料の内訳 (R3.9.1.)

紙媒体						マルチメディア	
図書	絵本	紙芝居	まんが	雑誌	新聞	CD	DVD
9,924	1,990	14	345	0	2	—*	—*

\*… CD、DVD を所蔵しているが正確な枚数を把握できていない。

参考までに、公益社団法人全国学校図書館協議会「学校図書館メディア基準」（2000年制定、2021年改訂）によれば、12学級の小学校で所蔵する印刷メディア（図書）の最低基

準冊数は23,400冊で、就実小学校はこれを満たしていない。同基準の新聞購読紙数は小学校では学級数にかかわらず6紙、雑誌の最低基準数は学級数12までの小学校の場合10誌で、就実小学校はいずれも満たしていない。同じく、12学級の小学校で所蔵する視聴覚メディア（CD、DVD等）の最低基準数は464枚で、就実小学校はこれを満たしていない。

表4 全国SLA学校図書館メディア基準「蔵書の配分比率」小学校（%）

0類 総記	1類 哲学	2類 歴史	3類 社会科学	4類 自然科学	5類 技術	6類 産業	7類 芸術	8類 言語	9類 文学	合計
6	3	16	10	16	6	5	8	5	25	100

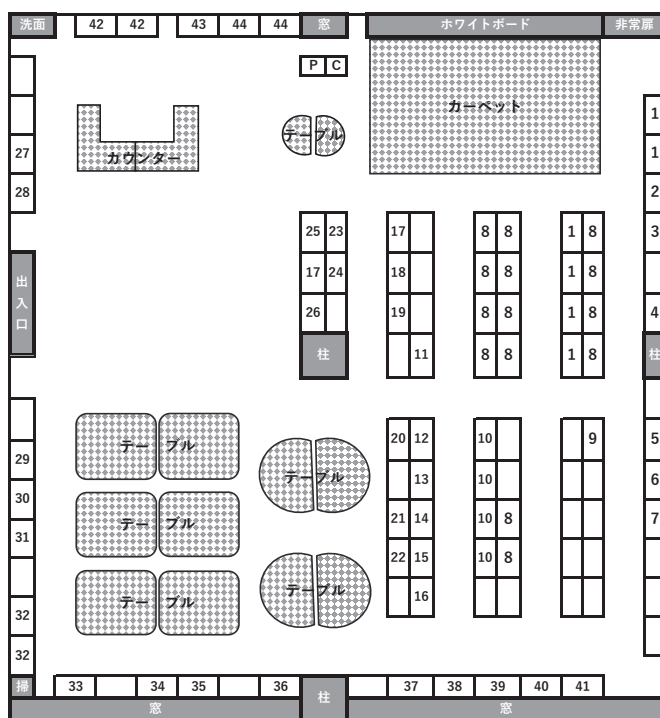


図5 図書館の資料配置（2019年8月）

また、同基準の「蔵書配分比率」【表4】に照らして、蔵書の主題の均衡が保たれているかどうか確かめたかったが、これまで就実小学校では日本十進分類法による資料分類がおこなわれていなかったため基準との照合はかなわなかった。

2019年当時の資料分類は【図5】に示すとおりであった。赤木かん子氏の提唱する資料分類<sup>1)</sup>の影響を受けたものと推測されるが、マニュアルが残されていないため、実際のところは不明である。

<sup>1)</sup> 赤木かん子『読書力アップ！学校図書館のつくり方』光村図書出版、2010など

- |            |                |                 |
|------------|----------------|-----------------|
| 1 絵本       | 16 美術          | 31 伝記           |
| 2 恐竜       | 17 Stories     | 32 戦争           |
| 3 乗物       | 18 Oxford      | 33 歴史           |
| 4 昔話       | 19 Lady Bird   | 34 暮らし          |
| 5 国語       | 20 食育          | 35 地理           |
| 6 詩        | 21 料理          | 36 社会・産業        |
| 7 古典       | 22 工作          | 37 動物・人体        |
| 8 やさしいおはなし | 23 Comics      | 38 鳥魚水          |
| 9 クリスマス    | 24 Non-Fiction | 39 昆虫           |
| 10 物語      | 25 世界          | 40 植物           |
| 11 言語      | 26 Novels      | 41 宇宙算数         |
| 12 スポーツ    | 27 郷土          | 42 授業関連 (教科書)   |
| 13 趣味      | 28 ポプラディア      | 43 新着図書         |
| 14 音楽      | 29 心           | 44 課題図書         |
| 15 演劇      | 30 人権          | (番号の割振りは筆者による。) |

## 2 大学教員の立場から (松崎)

### 2.1 2019年時点での問題点

松崎がはじめて小学校図書館を見学したのは2019年4月23日のことで、図書館のあり方に改善の余地が残されていることは一目瞭然であった。【図6】

①館内が暗く、②強い圧迫感があり、③死角が排除されていない、上述のとおり④日本十進分類法を採用しておらず、⑤モノの配置の合理性が見て取れないという問題を認識した。

① 館内が暗い原因は、窓が少ないことにある。そのうえ窓の前に高段書架を配置し、窓を完全に塞いでいる状態であった。

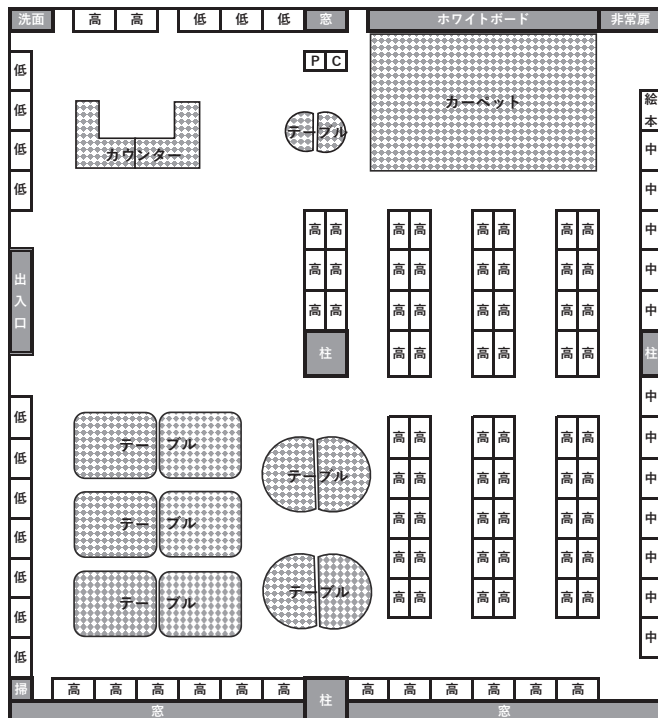


図6 図書館の書架配置 (2019年8月)

照明設備も独特で、なぜか蛍光灯を使用せず、図書館施設において適切とは言い難い電球色の電球が埋め込まれ、天井中央で円を描いていた。

- ② 強い圧迫感を受ける原因は、書架の種類と配置の方法にある。通常は、館内の見通しをよくするために高段書架をフロアの中心に配置することはしない。しかしながら、なぜか高段書架がフロアの中心に、しかも、入口から見て垂直方向に配置され、さらに悪いことには書架はすべて背板付きのタイプであり、見通しがまったく利かない状態であった。
- ③ 死角を排除することは、図書館の施設計画を考える際にきわめて重要なポイントである。児童の安全を確保し、事故を防ぐためにも、また大規模図書館の場合は防犯の観点からも、施設の管理運営上、死角はなるべく排除しなければならないが、当時の小学校図書館はとくに出入口付近やカウンターから監督がまったく行き届かない状態の書架配置になっていた。
- ④ 日本十進分類法は国内の大半の図書館で館種（公共・大学・学校など）を問わず採用されている分類法である。それにもかかわらずなぜか小学校図書館では日本十進分類法による分類をおこなっておらず、どのような法則に従って資料の分類作業をおこなったのか見当もつかない状態であった。秩序立った状態からは程遠く、どちらかといえば無秩序（カオス）に近かった。分類作業に関するマニュアルも引き継がれておらず、業務の継続性が保証されていなかった。
- ⑤ モノの配置の合理性が見て取れず、資料配列について説明することが出来ない状態では、児童を対象とした図書館利用教育を実施することは不可能であろう。このような図書館レイアウトの下では学校教育の一環として児童の主体的な学修を支援する空間の創出およびサービスの提供は不可能のように思われた。

上記の問題点は、2021年8月の図書館リニューアルによって一定程度解消され、改善された。図書館レイアウト変更に至るまでの検討の過程を以下に記す。

## 2.2 図書館レイアウト変更の検討過程

ミーティングは次の日程で開かれた。第1回 2019年8月26日、第2回 2019年9月9日、第3回 2020年8月24日。図書館リニューアルに係る作業は当初2020年春休みに予定されていたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、延期された。2021年春休みに実施する計画も立案されたが、ふたたび感染拡大の影響を受けて再延となり、夏休みによく実施することができた。

ミーティングを通して確認されたのは、①書架配置の変更、②資料配置の変更、③各コーナーの設置、④展示コーナーの充実、⑤マニュアルの作成の5点であり、それぞれの必要性についてメンバー間で認識を共有した。

- ① 書架配置の変更… (a) 採光が不十分であるという問題を解消するために、窓の前に



配置されている書架の種類を高段から中段あるいは低段に入れ替える。(b) 死角を排除し、出入口付近やカウンターからも監督が行き届くようにする。(c) 出入口付近のデッドスペースを解消する。(d) カウンター付近に衝立や書架を配置して間仕切りとすることで、利用者の目に触れない司書の作業場（バックヤード）空間を確保する。

- ② 資料配置の変更… (a) 国内シェア9割以上を占め、最も普及している分類法である日本十進分類法を採用し、資料分類をし直す。当然のことながら、(b) サイン計画全体を見直し、図書に貼り付ける背ラベル、色シール、棚見出し、書架見出しなどすべて作り替える。併せて、(c) 掲示用および頒布用の図書館マップを作成する。
- ③ 各コーナーの設置… 展示、新刊、新聞、雑誌、新書、郷土（地域）資料などの空間を設ける。新聞、雑誌については購読タイトル数がきわめて少ないため、ブラウジングコーナーを設けると同時に、購読タイトル数を増やす必要性についても確認された。新聞、雑誌のブラウジングに適した形状の椅子、ソファを牛乳パックのリサイクルで手作りするというアイデアも出された。
- ④ 展示コーナーの充実… 児童ら利用者の注目が集まる出入口付近で資料展示をおこなうことが望ましい。当然のことながら定期的に展示替えをおこなう。サイン計画や飾りつけによって展示の内容を際立たせ、児童の関心を惹くように努める。展示用書架を配置するか、あるいはブックトラック（book cart；図書館内で資料を運搬する台車）を活用して展示をおこなう。
- ⑤ マニュアルの作成については、とくに配架マニュアルに (a) 所在記号および (b) 別置と混配に関する規定を設けなければならない。所在記号とは、背ラベル（段組み）に印字される記号のことで、分類記号と著者記号、図書記号などを組み合わせて構成する。構成要素、順序（ソートの順番）、記述法は各図書館のマニュアルで規定する。別置とは、資料の種別を主題に優先して資料を配置する方法を指す。資料種別とはメディア（記録媒体）の種類を表す。一方、混配とは混合配架の略であり、資料の主題を種別に優先して配架する方法を指す。

## 2.3 授業教材としての活用

上記ミーティングと並行する形で松崎は、図書館の分類・件名・目録および図書館レイアウト、サイン計画について学修する科目のなかで就実小学校の事例を授業教材として活用した。

図書館司書科目「情報資源組織論」では、まずモノの配置の合理性を重視する姿勢について説明し、館内で撮影した写真を提示しながら現状の課題を指摘して小学校図書館のレイアウト変更に関するレポートを課した。当該科目は履修者が大勢のため図書館見学の実施は不可能であることからこのような形態をとった。

一方の学校図書館司書教諭科目「学校図書館メディアの構成」は、履修者数がきわめて

少ないために、就実小学校図書館および就実高等学校・中学校の見学を授業の一環として実施することが可能であった。

2019年7月26日「情報資源組織論」の授業で、就実小学校図書館の図書館レイアウト変更に関する提案および合理的な説明を求めてレポートを課した。履修者数95名。

2019年11月27日「学校図書館メディアの構成」の授業で、学生9名とともに就実小学校図書館を見学。図書館レイアウト変更に関する提案および合理的な説明を求めてレポートを課した。

2019年12月18日「学校図書館メディアの構成」の授業で、学生10名とともに就実高等学校・中学校図書館<sup>2)</sup>を見学。学校図書館司書・原田有美氏によって作り出された図書館から合理性と創意工夫を読み取るように求めてレポートを課した。

2019年12月25日「学校図書館メディアの構成」の授業で、就実高等学校・中学校図書館の見学を振り返り、就実小学校図書館との比較をおこない、児童生徒の主体的な学修を支援する空間づくりに関する考察を求めてレポートを課した。

受講生から提案された書架配置のなかに以下のようなイメージが含まれていた。【図7】【図8】【図9】死角を排除することの重要性について十分に理解してもらえたようである。【図9】で書架を円形に配置しているのは、図書館の天井中央に埋め込まれ円を描いている電球色の電球のもとに書架を配置するという斬新なアイデアである。館内中央の大

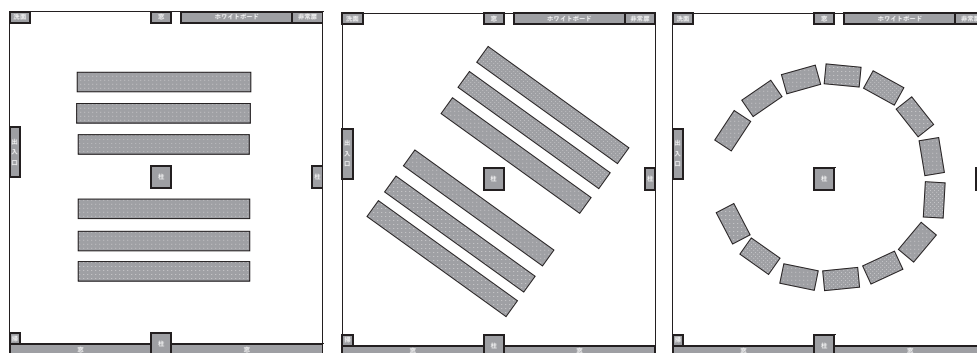


図7 書架配置案 A

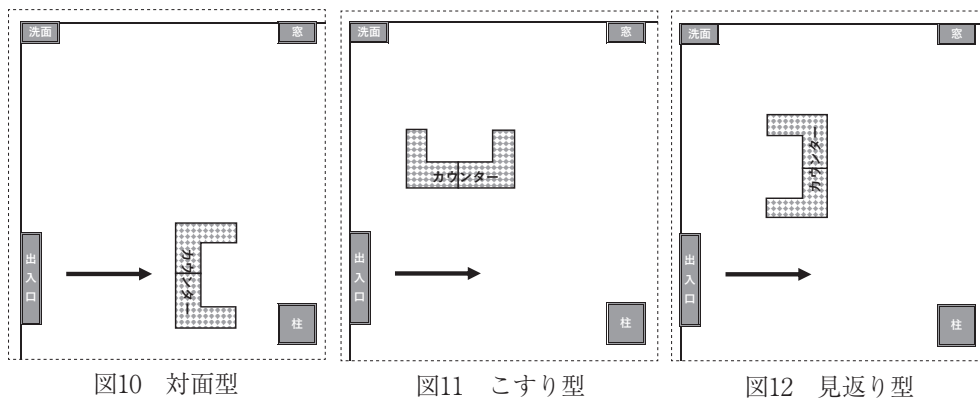
図8 書架配置案 B

図9 書架配置案 C

<sup>2)</sup> 就実高等学校・中学校図書館（弓之町校地）は、2017年9月新校舎に移転し、11月に開館した。面積は390㎡。座席は90席で、うち24席はアクティブラーニングに対応した可動式の席となっている。開館日時は平日、月曜から金曜までの9:30～17:30。蔵書数は約30,000冊。年間貸出冊数は7060冊。雑誌タイトル数は33タイトル。（出典：原田氏作成「令和元年度高教研学校図書館部会司書部会備前支部研修会（R1.6.28.）」資料より引用）

大きな柱は往々にして書架配置に関する自由な発想の妨げとなったが、それを逆手に取った書架配置といえる。

館内中央のこの大きな柱は、カウンターの配置を検討する際にも障害となった。カウンター配置の仕方には、対面型、こすり型、見返り型の三種類があり、【図10】【図11】【図12】放送大学教材『学校図書館メディアの構成』によれば、対面型は利用者が図書館へ入りにくい配置で、こすり型は一般的な配置、見返り型の場合はカウンターの位置をわかりやすくする工夫が必要となる<sup>3)</sup>。



受講生から提案されたカウンター配置案のなかに含まれていた【図13】のイメージは、館内中央の大きな柱を取り囲む形でカウンターを配置している。このように配置すれば、カウンターのなかから館内全体を見渡すことができるであろう。

就実大学・就実短期大学図書館の2階正面玄関付近にこすり型で設置された中央カウンターは柱を取り囲む大型の円形カウンターである。受講生は大学図書館のスタイルに着想を得たのかもしれない。大学図書館のように蔵書数30万冊を超える大規模図書館であれば、この配置でも無理は生じないが、就実小学校のように小規模の図書館においてはあまり現実的ではなかった。電話、電気、インターネットの配線から生じる制約もあり、カウンター設置場所の変更には多くの困難を伴った。

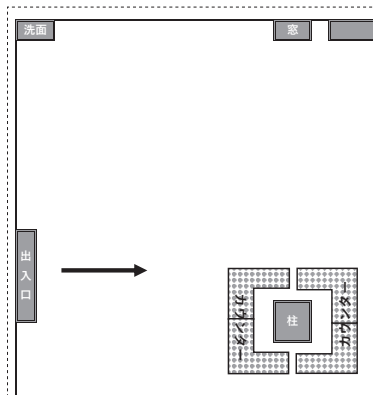


図13 カウンター配置案

アイデアの採否は兎も角として、受講生と松崎は、実在する学校図書館のレイアウト変更とその合理性について思案するという貴重な学修の機会を得た。

<sup>3)</sup> 高鷲忠美ほか編著『学校図書館メディアの構成』放送大学教育振興会, 2005

### 3 学校図書館司書の立場から（普津澤）

#### 3.1 リニューアルをしてどう改善されたか

- ・モノの配置、動線が改善されたことで、配架・書架整理がしやすくなり、作業時間が大幅に削減された。
- ・館内北西のホワイトボード前に閲覧席を移動したことで、ホワイトボードを活用した図書の授業が行えるようになった。また、出入り口付近にあった以前と比べ静かな環境になったことで、児童らが落ち着いて読書が出来るようになった。
- ・カウンター周辺の不要なモノ・デッドスペースを排除したことで使いにくさが改善された。
- ・東側の書架を低段書架にしたことで採光、窓の開閉を可能にし、十分な換気と明るい館内環境が実現した。
- ・入口から見て平行に書架を配置し死角を排除することで、児童の安全管理が行いやすくなった。
- ・日本十進分類法による配架をしたことで資料の所在の把握が容易になった。
- ・カーテンを遮光のものに付け替え、資料を日焼けから保護した。さらに、落ち着きのある緑色にしたことで居心地の良い雰囲気を作り出すことができた。
- ・カウンター廊下側に衝立を設置し目隠しをしたことで、乱雑な印象を解消することができた。

#### 3.2 リニューアルに際してのこだわり

リニューアルに際し、普津澤は児童・教職員が利用しやすいように整備すること、温かみのある落ち着いた空間づくりを最優先事項とした。死角を排除しつつ、動線を意識したモノの配置、デッドスペースを解消し、今ある設備を最大限利用できる状態にすること、カウンター周辺の不要なモノを無くすことを達成事項として設定した。

また、通常併設されているであろう準備室が就実小学校の図書館には無く、司書の事務スペースが無い状態であった。加えて廊下側の壁は一面ガラス張りのため、図書館の備品や準備中の資料等が館外から全て見え、乱雑な印象を与えていた。そのため普津澤は、寄贈図書や廃棄予定資料などを保管するための書庫、普段使わない用具や備品を置く倉庫、事務作業をするための事務スペースとして使用できる空間を図書館内に設ける事を構想していた。

#### 3.3 今後どうしていくか

今後 ICT 活用のためスクリーン、プロジェクター設備等の充実、カーペットの新調、利用者（特に児童）にとって分かりやすい書架サインの設置、館内マップの作成などを行い、より児童、教職員が利用しやすい環境整備に取り組む。



図14 展示コーナーの様子 (普津澤制作・撮影、2020年)

左上：秋がやってきた！ 右上：おすすめの本  
左下：ハロウィーン 右下：冬がはじまるよ

#### 4 小学校事務職員の立場から：就実小学校図書館リニューアルの道のり (水溜)

##### 4.1 経緯

普津澤司書が就実小学校に2019年8月末に赴任するまで、2019年4月～8月の短期間、事務室勤務と並行して小学校図書館司書の仕事をしていました。小学校開学より勤務していた司書が退職し、その代わりにということで、普段は職員室、休み時間になると図書館を開館するという日々を送ることになりました。4月より図書館のカウンターへ座ってみると、書架の配置が何故この方向なのだろうと疑問を感じ、同時に不具合だと感じるようになりました。何とか書架の配置換えができないものだろうかと思いを巡らせ、思い切って十河教頭に伝えたところ、全くの同意見であったため、書架配置を変更する図書館リニューアル計画を立て始めた、まさにそのタイミングで、松崎准教授が小学校図書館を見学に来られ、いろいろなご意見をお伺いするうちに図書館リニューアルを協働しておこなうことが瞬く間に決まりました。

## 4.2 予算確保

次に必要となるのが、書架移動の予算です。図書館リニューアルを実施するにあたり、予算を確保しなくてはなりません。実現のため2020年度予算に計上することになります。しかし、これは厳しい計上となることが予想され、本当に予算が貰えるのか分からない状態でした。理由は、就実小学校は2015年4月に開校しましたが、開校時は大学のE館という建物を改装して使用しており、小学校は間借りしている状態でした。その後、今の校舎が2017年4月に完成し、現在に至るのですが、リニューアルまでの期間が3年しか経過していないため、予算確保が難しいかもしれないと考えていました。どうして最初からその配置にしなかったのか、数年しか経っていないので今のままで良いのではないかなどと問われることが予想されたからです。実際、予算ヒアリングの際には、3年しか経過していないのに何故、書架移動が必要なのかと問われました。そこで、開校時に現在の書架配置になった理由、書架配置を変更したい理由、我々の目指している図書館の姿、そして大学との協働事業であること、これらを丁寧に的確に十河教頭が説明し、学園も納得した結果、無事に予算を確保することができました。

## 4.3 レイアウト

次は図書館のレイアウトについてです。配置案は考えていたのですが、学生達の独創的で斬新なアイデアを拝見すると、このような風に来たら面白いだろう、楽しいだろうと想像し、少しでも取り入れることが出来ないだろうかと考えました。しかし、現実的には難しく、断念せざる得ませんでした。小さな図書館であるが故、配置転換によって、閲覧スペースが狭くなることは避けなければならなかったこと、そして、現存書架をすべて配置する必要があったからです。リニューアルに際し、重要視したことは、①～④についてです。

### ① 書架配置の変更

#### (1) 出入口（廊下）に対し、書架を平行に配置

- ・一番の課題である書架の間にいる児童の動きがわからない見えないこの問題を解決するため、出入口に対して書架を平行に配置し、図書館の最奥まで見渡せるように書架を配置し、死角を排除することで、廊下側から児童の様子を確認できるようにする。

#### (2) 東窓側の高段書架を低段書架に変更

- ・東側窓を塞いでいた高段書架を低段書架に変更し、高段書架は北側壁面にすべて移動する。東側低段書架の上部をすべて窓面（すりガラス）とすることで、採光を十分に取り入れ、圧迫感を少なくする。

② 出入口付近のデッドスペースの排除

- ・出入口付近とカウンター横に面したスペースがデッドスペース状態で、配置している低段書架が全く利用されていなかったため、移動することで、その奥にある水道、カウンターへの動線を改善し、また、将来的に、長机等を配置し、閲覧スペースとして利用できるようにする。

③ 閲覧席の移動

- ・西壁面に大きなホワイトボードが設置されており、今まではほとんど利用されることがなかったため、閲覧席を移動し、授業で有効活用できるようにする。

④ 作業スペースの確保

- ・新たな司書専用のバックヤードを増築することは出来ないため、カウンターと一体化している作業スペースを間仕切り等で分離し、司書専用の作業スペースを確保する。

これらを基に、図書館床にマスキングテープを貼り、書架の配置をイメージしながら、いくつかレイアウト案を作成し、十河教頭、普津澤司書と試行錯誤した結果、現在の図書館レイアウトが完成しました。

ただし、思い描いていたことで出来なかったこともあります。カウンターから児童の様子が見渡せる配置を想定したのですが、出入口に対して書架を平行に配置すると、カウンターを移動する必要があります。しかし、電話、電気、ネット配線の設定上難しく、また、移動することで、カウンターと作業スペースが分離し、動線が悪く、作業効率も悪くなることから断念せざるを得ませんでした。

#### 4.4 書架移動

書架移動について当初、2020年度に行う予定となっていました。しかし、コロナウイルス感染症の感染拡大のため、2020年春の移動は断念し、2020年夏休みの実施も考えましたが、1学期が7月末まで延長、夏休みが短縮され、作業日程的に無理であると判断し、計画しませんでした。続いて2021年春休みを予定しましたが、再びの感染拡大となり、2020年度の書架移動を断念、2021年度に延期することを決めました。そのため、再度、2021年度予算を申請し、コロナウイルス感染症感染拡大が理由の延期ということもあり、2021年度予算は確保することができました。

#### 4.5 リニューアル

延期が続いていた書架移動を2021年夏休みに実行することが決まり、業者選定をおこなうことになりました。今まで小学校事務室で行っていた業者選定と相見積もりを法人管財課が実施することになったため、作業内容要望等を小学校から伝え、業者決定を待ちました。幸いだったのが、業務を担当した法人管財課課長が、大学図書館と一緒に仕事をした人で、図書館のことがわかっていたため、

業者とのやり取りがスムーズに進みました。数週間を要しましたが、無事に業者も決定し、8月18日に書架移動を実施することになりました。移動の際、カウンター周りの配置は大まかにしか決めていませんでした。書架を一旦配置し、バランスを見ながらカウンターや家具、書架も含めて調整するほうが良いだろうと話し合っており、固定前に、普津澤司書が微調整をおこない、その後、転倒防止措置を施し、書架移動作業は終了しました。

さらに、今回の移動に併せて、念願であった本を分類番号順に並べる作業にも着手しました。夏休みの間、図書館を閉館し、普津澤司書が全ての本を分類番号順に並べ替え、その本をアフタースクール（学童保育）の児童と教員で図書館隣の多目的教室に運び、床に積んで並べ、書架移動後、指定の分類の書架に本を戻すという作業をおこない、分類順に本を並べることができました。こうして、8月25日、2021年度2学期よりリニューアルした図書館をオープンする運びとなりました。

コロナウイルス感染症の感染拡大がなければ、本を分類順に並べ替える作業や移動する作業等は、大学との協働が可能でしたが、それが叶わず、仕方がないこととはいえ、本当に残念ではありました。

#### 4.6 最後に

今回の図書館リニューアルを大学と協働できたことは本当に素晴らしい経験でした。校種が異なる場合、各々が別の時間軸で仕事をしており、さらに、職種が異なるメンバーと協働することは難しいのですが、今回、それが実現できたのは、松崎准教授と黒瀬課長が小学校図書館に興味をもち、改善しようと努力してくださったこと、十河教頭が、図書館の重要性を理解し、予算確保、レイアウトの相談、大学との協働に尽力してくださったこと、普津澤司書が、図書館を少しでも良くしたいという思いで努力し、働いてくださったこと、様々な立場のメンバーの力を結集し、協働した結果、今回の図書館リニューアルが実現できたと感じています。まだまだ改善は続きますが、今後も大学との協働を深め、より良い図書館を作り上げていけるよう努めていきたい。



## 5 小学校教頭の立場から (十河)

十河は、就実小学校教頭として赴任する半年前の2018年9月から月に1回程度小学校を訪問して、現状と課題について分析する機会をいただいていた。その中で、課題の1つとして、図書館リニューアルの必要性を強く感じた。十河は、以前に勤務していた公立小学校で、司書教諭を務め、大規模図書館リニューアルや図書館新築プロジェクトに関わった経験があり、学校図書館の機能とあるべき姿について、多少なりとも知識があった。就実小学校図書館の第一印象として、新築3年目で新しく、贅沢にオール木材の書架を設置しているにも関わらず、閉塞感と暗さを感じた。また、資料の配置についても、日本十進分類法を採用していないことにも違和感を覚えた。新築したばかりの図書館をすぐにリニューアルすることは、大変困難なことであったが、様々な人々との出会いにより、赴任後2年半という短期間に実現することができた。以下に、リニューアルまでの経緯について述べていく。

十河が、2019年4月に赴任した時、開校当時から勤務していた学校司書が退職し、小学校図書館には学校司書が不在の状況であった。学校事務職員の水溜が、これまでの就実大学図書館の司書の経験を生かし、司書教諭や図書館教育担当教員とともに図書館運営にあたってくれた。

就実大学松崎先生と就実大学図書館黒瀬様は、以前から大学や大学図書館と小学校図書館との連携を考えてくださっていた人物である。十河の赴任後すぐに、松崎先生から「小学校図書館を見学したい。」というご依頼があり、黒瀬様と一緒に見ていただくことになった。その際、十河から、「課題の多い図書館だと思うので、ぜひご助言いただきたい。」とお願いした。その後も現在に至るまでずっと、こちらから連絡をせずとも、ほどよいタイミングで声をかけてくださり、書架レイアウト案のご提案や資料の配置方法等のご助言をいただけたおかげで、リニューアルに向けて、少しずつ計画を進めていくことができた。

2019年7月には、小学校事務職員1名の異動があり、水溜の業務が過多となり、これまでのように図書館業務に携わることができない状況になった。そこで、専任の学校司書の配置の必要性が高まり、新しく学校司書の公募を行ったところ、学校図書館での勤務経験はないが、司書の資格を有する普津澤が2019年8月末(2学期始業式)から新しく学校司書として勤務することになった。普津澤が勤務するようになってから、新刊図書の展示コーナー設置や季節ごとのおすすめの本展示コーナー、小学生新聞の設置等、図書館のプチリニューアルが進んでいった。

その後、学園への図書館リニューアルに関する予算請求も行い、松崎先生や黒瀬様のご助言をいただきながら、普津澤、水溜を中心としてリニューアル実現へと着々と準備を進めていった。そしてついに、2021年8月、業者による書架の配置換えが行われ、死角が多かった図書館が、廊下からも奥まで見渡すことができ、開放感のある明るい図書館へと生まれ変わることができた。同時に、資料の並びを日本十進分類法に変更するとともに、資

料に当たる太陽光の影響を考え、遮光カーテンへの設置替えも行った。

以下に、図書館リニューアルについての児童、教職員からの意見を掲載する。

### 【児童アンケート】

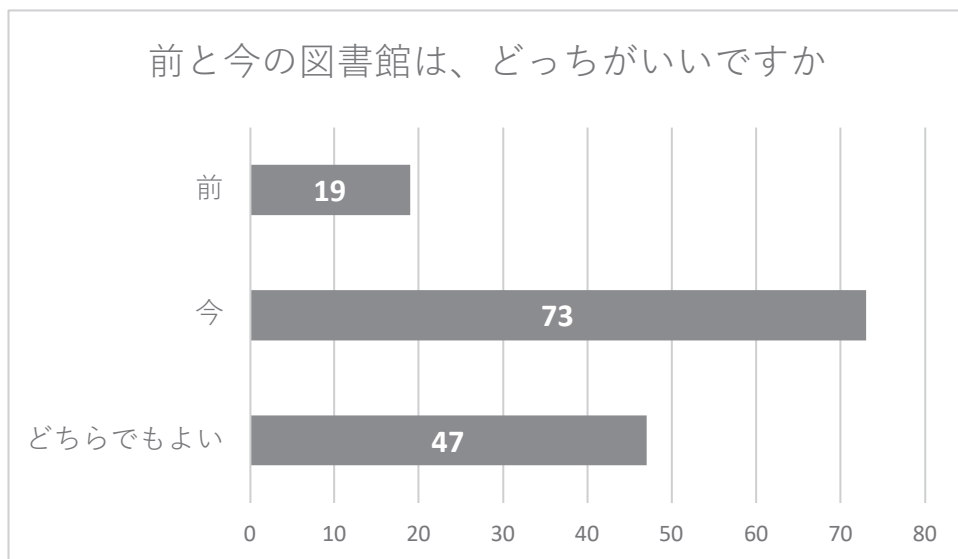


図15 児童アンケート結果①

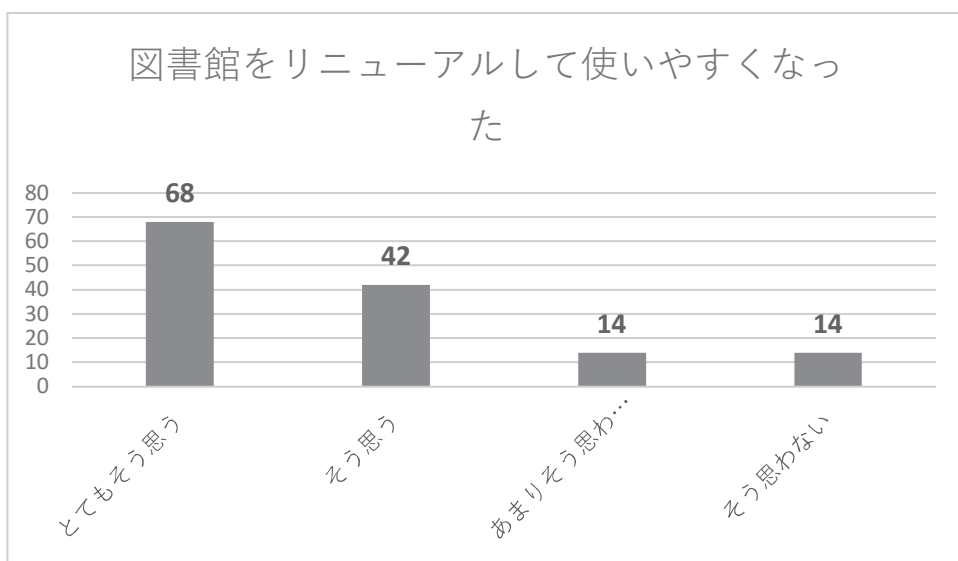


図16 児童アンケート結果②

Q 新しい図書館をどう思いますか。

#### ①肯定意見

- ・本が綺麗に整理されててどこにあるかわかりやすい。(多数)

- ・どこにどんな分類の本があるか分かりやすくなった。(多数)
- ・番号があって、わかりやすい。(多数)
- ・机の位置が変わったことで、借りたい本が置いてある場所に行きやすくなった。
- ・前は、順番通りではなく漫画は漫画みたいな感じに置いていたけど今は、歴史、科学みたいな感じに分けているから漫画の中で探すのではなく自分が欲しい本の数字に行けばすぐに取れて本が借りやすくなった。前は番号順ではなかったけど、今は番号順になりみんなが番号で揃えるようになったら、もっとわかりやすくなった。
- ・県立図書館と同じだからどこにどの本があるのか、探す時間が少なくなり借りやすくなった。
- ・綺麗に整えられているから図書館をまわって見たらたくさんの面白そうな本を見つけられること。
- ・部屋が広くなったように感じた。
- ・本の作者や内容ごとにまとめていること。
- ・広々使えるようになった
- ・本だなが縦になって往復がしやすくなった。
- ・縦になったので人とぶつかりにくくなったと思います。
- ・広くなった感じがして読むところがまとまっているところ。
- ・全体的に見通しがよく、どこに本があるか分かり易い。
- ・全部の本を見渡せること！
- ・カーテンがついて色が増えた。

②否定意見

- ・一年生には難しそう
- ・前のならべ方の方がなれていたので良かった

【教職員】

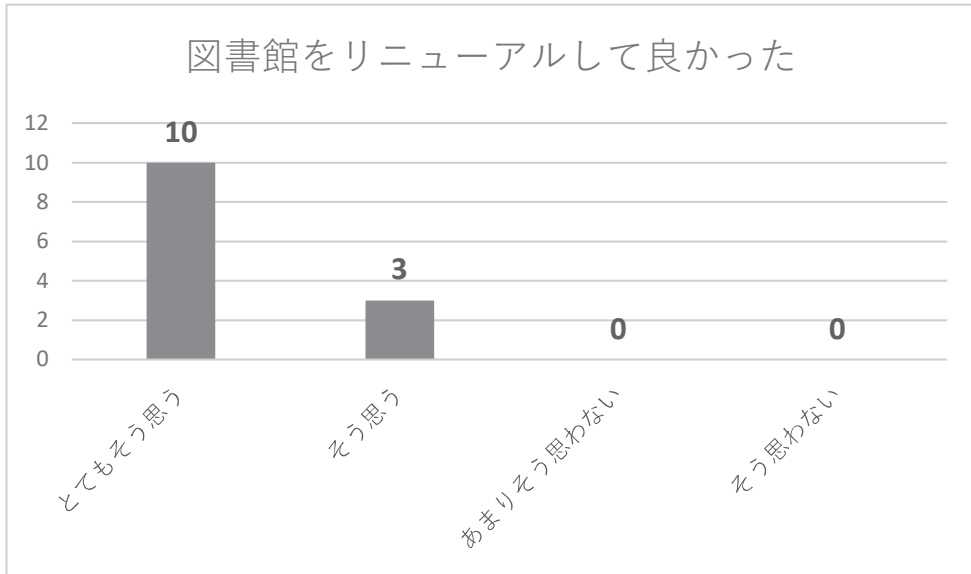


図17 教職員アンケート結果①

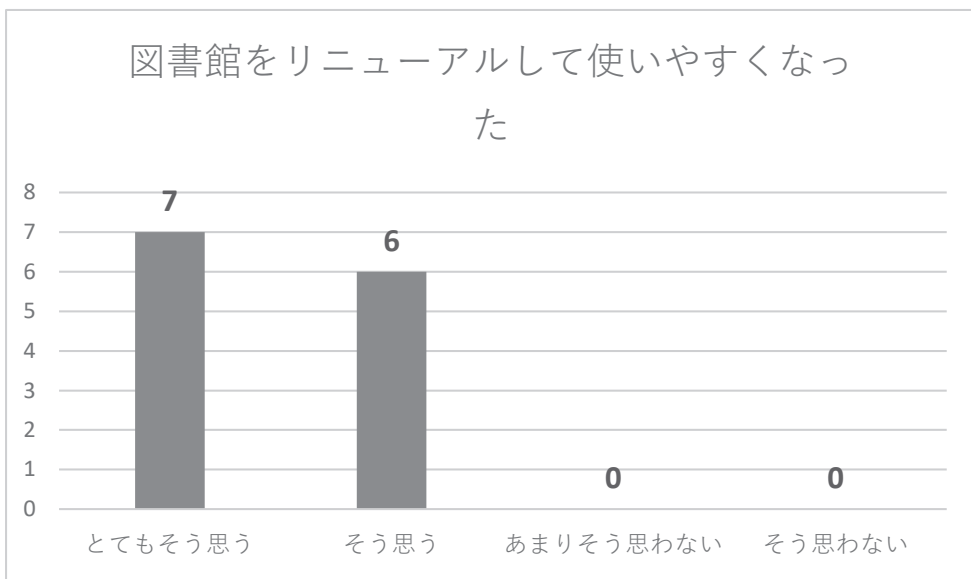


図18 教職員アンケート結果②

Q 新しい図書館をどう思いますか。

- ・教員の目が届く配置になったところがよかったと思います。
- ・開放感が感じられるようになった。また日本十進分類法を取り入れたので、本の整理がしやすくなった。
- ・ホワイトボードの前で授業ができるので良いと思った。

- ・死角が少なくなり、子供たちの様子を見届けやすくなったと思います。以前よりも本を探しやすくなっているように思います。
- ・書架にいる児童の様子がわかりやすくなった。
- ・奥まで見やすくなった、死角が少なくなった
- ・明るくなった。
- ・大型の絵本を読めるようになって、喜んでいる児童がいるので良かったと思います。
- ・ホワイトボードやプロジェクタが使いやすくなった。

### 【考察】

全体的に、肯定意見が非常に多く、図書館リニューアルは、成功であったと考える。特に、資料の配架については、大部分の図書館で取り入れている日本十進分類法を採用したことにより、資料を探しやすくなったという声がたくさん上がっていた。また、書架の向きを変えたり、窓側の書架を低い物に変えたりした結果、圧迫感がなくなり、より広く開放感のある図書館にすることができた。

今後は、さらに蔵書数を増やすことやより利用しやすい資料の配置の工夫、児童へのレファレンスサービスの実施、資料展示の工夫などに取り組み、図書館の機能を充実させていきたいと考える。今後も、大学や大学図書館と連携してよりよい図書館となるよう努めていきたい。

## 6 大学図書館司書の立場から：大学図書館と小学校図書館との協働事業について（黒瀬）

2015年4月に就実小学校が開校したことを受けて、就実大学・就実短期大学図書館（以後、大学図書館と略す）では小学校図書館との連携を考えていた。これは、同じ校地内にある姉妹校という関係性だけではなく、小学校図書館の役割が、中学校、高等学校、大学へと続く、その後の読書活動に影響を与えるのではないかという考えに基づいたものであった。

しかしながら、小学校は開校当初、現在の校舎は建築中であり、教室も大学校舎であるE館内に設置されており、図書館も準備中の状態であった。

一方、大学図書館も度重なる人事異動と私立大学図書館協会理事校業務や日本薬学図書館協会幹事校業務により、日々の図書館運営に追われる状態であった。以上の理由から、2015年から2019年に至るまで、同じ学園内の連携を理想としながらも、実現することはなかった。

そのため、松崎准教授より、小学校図書館のレイアウト変更の検討会に誘われたことは、連携を模索していた大学図書館として、ちょうど良い機会であった。

2019年8月の打合せ会が小学校図書館を訪れた最初であった。最初の気持ちは、部屋全体の閉塞感と、本の配列が、日本十進分類法の順番では無いことであった。閉塞感は、

背の高い書架が日当たりの良い窓辺や廊下側のガラス面に配置されていることが原因であると感じた。黒瀬の私見では、小学校の図書館は明るく開放的であるとともに、何かしら穏やかさを感じられる場所であって欲しいと願っている。

次に、本の配列についても、児童が興味を持ちやすいように意図した配列ではないかと、想像をしたが、この意図を維持し継承することは難しいのではないかと感じた。現場の職員から、返却本の配架が難しいとの意見が出ており、そのことを裏付けている。これら問題点の詳細は松崎准教授の考察を参照されたい。

大学図書館としては、小学校図書館のレイアウト変更作業を含めて、どのようなアプローチをすることができるかを検討した。連携にあたっては、大学図書館が導入している学生協働に取り入れることを考えていた。

ここで少し大学図書館の学生協働について説明したい。大学図書館は2015年秋より学生協働を開始していた。学生協働とは、図書館業務の一端を、職員とともに、利用者でもある学生が担う活動である。これは、学生が、図書館での活動をとおして、図書館利用の理解を深める。利用者が求めるサービスを図書館側へ伝える。問題点がある場合には、その解決方法を職員と一緒に考えて実行する。これらの活動によって、他者とのコミュニケーションや自主的な行動ができたりするようになり、ひいては、学生の主体的学びのきっかけとなることを期待して始めた活動であった。

当時の学生協働に参加している学生（以後、図書館サポーターと称する）の構成は、人文科学部と教育学部が主であった。図書館サポーターの中には、教職関係への就職を希望する者もいることから、小学校図書館でボランティア活動をしてみたいか、どうか、投げかけたところ、どんなことができるのかわからないが、興味はあるのでやってみようという回答があった。

小学校図書館のレイアウト変更の際して、図書館サポーターの取り組みが可能なこととして、以下の事柄を考えた。

① 本の移動 ② 引っ越し準備 ③ 展示物の飾り製作

しかしながら、実際には、新型コロナウイルス感染症の影響により、学生の登校自粛や活動制限が行われたため、今回のレイアウト変更には携わる事ができなかった。

しかし、今回の協働がきっかけとなり、以前より念願であった小学校での読み聞かせを、2019年10月と11月に、1年生と2年生を対象に行うことができた。この経験は、図書館サポーターにとって大きな自信につながり、さらなる上位学年の読み聞かせに挑戦する試金石となった。

今後も、小学校図書館との連携を深めながら、児童や学生に良い環境が生まれる関係作りを構築していきたい。

### おわりに (松崎)

2019年から検討が開始された就実小学校図書館リニューアルは2021年に漸く実現した。とくに図書館レイアウトの抜本的な見直しを図ることによって図書館機能を向上させ、状態を改善することが出来たと確信している。

十河教頭によって実施されたアンケート調査の結果は、実施した図書館リニューアルが児童および教職員に受け入れられ、概ね好評を博した事実を示している。図書館レイアウトの変更は図書館利用者の内面に影響 (impact) を及ぼすだけの成果 (outcome) を挙げることが出来たと捉えることが可能であろう。

検討会メンバーがそれぞれのさまざまな経験と知識を持ち寄って協働することが出来たことは幸いであった。とりわけ十河教頭の着任がこの協働事業へ及ぼした影響は計り知れない。小学校を経営する立場にある十河教頭が学校図書館の重要性を理解していなければ、大学教職員の受け入れに前向きな姿勢を示していなければ、協働は実現し得なかった。十河教頭が学校図書館を取り巻く環境に変化をもたらすのを松崎は目の当たりにした。この点を是非強調しておきたい。

来年度以降も、就実小学校と就実大学教職員の間で協働を継続する予定である。新型コロナウイルス感染症による非常事態が収束すれば、図書館サポーター (学生) による積極的な参画が可能となるであろう。児童および学生に提供する学校教育のより一層の充実を図るために図書館の発展を目指して協働を続けていきたい。